

報道各位

株式会社エフエム東京
クワトロメディア株式会社

TOKYO FM、クワトロメディア、福岡ユビキタス特区にて 自動蓄積型マルチメディア放送サービスの実証実験開始！

株式会社エフエム東京(東京都千代田区、代表取締役社長: 富木田道臣、以下「TOKYO FM」)と、クワトロメディア株式会社(東京都港区、代表取締役社長: 甲賀武、以下「クワトロメディア」)は、福岡ユビキタス特区にて行われている「3セグメントマルチメディア放送実証実験」において、放送波を利用したコンテンツ配信実験に機能追加し、ユーザが意識しなくても端末に自動的に配信される「自動蓄積型マルチメディア放送サービス」の実証実験を、福岡マルチメディア放送実験試験局上で2010年7月7日より開始致します。

本実証実験は、放送波を利用して動画、音楽、ゲーム、電子書籍など様々なデジタルコンテンツを端末へ自動的に蓄積し、その後ユーザが好きな時に視聴再生することが出来る蓄積型放送サービスの技術検証を行うものです。当初は音楽コンテンツ、携帯向けFlashゲームを配信し、有料コンテンツに関しては決済後に視聴再生可能となります。

これまでの実験はユーザの操作によりファイルが蓄積されるものでしたが、将来のマルチメディア放送での展開を想定し、番組に連動しない形の自動蓄積型機能を追加するものです。

福岡ユビキタス特区「3セグメントマルチメディア放送実証実験」は、2011年以降にアナログテレビが終了した跡地の周波数帯であるVHF-LOW帯を利用して全国でスタートする「地方ブロック向けマルチメディア放送」の先行実験と位置付けられています。今回の蓄積型コンテンツダウンロードサービスは、この地方ブロック向けマルチメディア放送におけるサービスの1つとして検討されております。

この実験の様子は、7月7日8日に福岡国際センターで開催される「九州放送機器展2010」福岡ユビキタス特区実験試験局ブース(ブース番号I-64)にて、展示デモを行います。

実験を実施する各社の役割は以下の通りです。

<TOKYO FM>

福岡ユビキタス特区実験試験局の運営、放送コンテンツの送出管理を行います。

<クワトロメディア>

データ放送コンテンツの制作、通信サーバーの運営を行います。

TOKYO FM、クワトロメディアは、今後も福岡ユビキタス特区「3セグメントマルチメディア放送実証実験」を通して、マルチメディア放送の特色の1つであるデータ放送の新しい利用方法を提案してまいります。

【自動蓄積型マルチメディア放送利用イメージ】

